

歯周病と糖尿病

歯周治療で糖尿病を改善

歯周病は以前から、糖尿病の合併症の一つと言われてきました。実際、糖尿病の人はそうでない人に比べて歯肉炎や歯周炎にかかっている人が多いという疫学調査が複数報告されています。

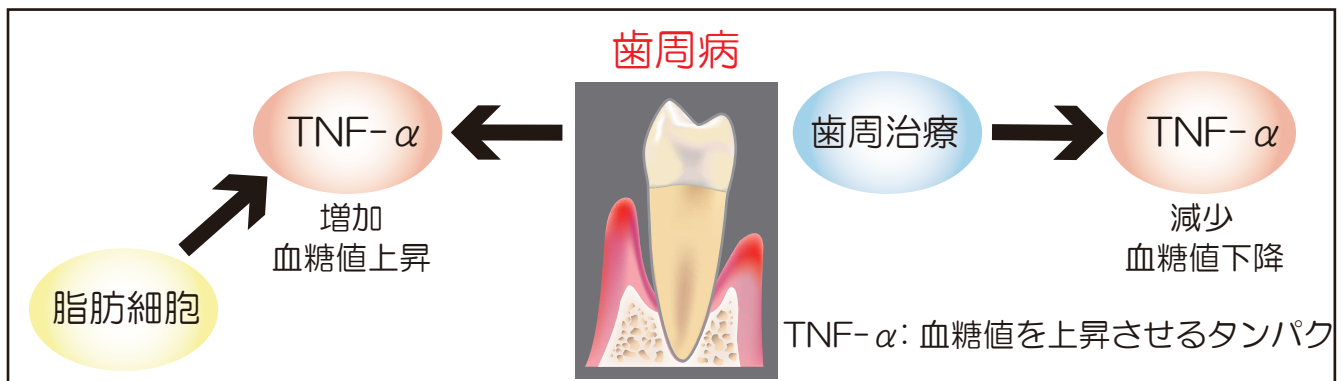
日本人の糖尿病

2210万人 強く疑われる人
可能性を否定できない人
3人に1人 40歳以上で糖尿病の疑いがある人

糖尿病の慢性合併症

1. 腎症
2. 網膜症
3. 神経障害
4. 大血管障害
5. 小血管障害
6. 歯周病

さらに最近、**歯周病になると糖尿病の症状が悪化する**という逆の関係も明らかになってきました。つまり、歯周病と糖尿病は、相互に悪影響を及ぼしあっていると考えられるようになってきたのです。**歯周病治療で糖尿病も改善**することも分かってきています。



歯周病菌は内毒素をまき散らす

(内毒素とは? : 細菌含まれる毒物。細菌が死滅しても毒は残る。)

歯周病菌は腫れた歯肉から容易に血管内に侵入し全身に回ります。血管に入った細菌は体の力で死滅しますが、歯周病菌の死骸の持つ内毒素は残り血糖値に悪影響を及ぼします。血液中の内毒素は、脂肪組織や肝臓からの TNF- α の産生を強力に推し進めます。TNF- α は、血液中の糖分の取り込みを抑える働きもあるため、血糖値を上昇させてしまうのです。歯周病を合併した糖尿病の患者さんに、歯周治療を行ったところ、血液中の TNF- α 濃度が低下するだけでなく、血糖値のコントロール状態を示す HbA1c 値も改善するという結果が得られています。

歯周病は生活習慣病

歯肉の炎症が全身に多くの影響を与えることは昨今の研究で明らかになってきています。歯周病も糖尿病も生活習慣病ですから互いに深い関係があって不思議ではありません。毎日の食生活を含めた生活習慣を見直し、歯周病を予防する事が全身の生活習慣病を予防することにつながります。